写真：ひたちなか市 光泉寺 大内光

いってらっしゃい

市街地から田園地帯を駆け抜け、阿字ヶ浦の海まで至るひたちなか海浜鉄道湊線。距離14.3キロという短い路線に10の駅舎がある。真っ直ぐに伸びる単線の上を汽車は走り、那珂湊駅で上りと下りの汽車がすれ違う。出発の際に鳴らす汽笛は、周りへの注意を促すと同時に「いってきます」という声にも聞こえてくる。そして駅員は「いってらっしゃい」と見送る。「いってきます」は、行くと帰ってきますが…、「いってらっしゃい」は行っておいでと帰ってらっしゃいが合わさってできあがった言葉。那珂湊駅ではいってきますと言える喜び、いってらっしゃいと言われる尊さを味わう事ができるように思えてならない。

ひたちなか市 清心寺 増田廣樹

ひと

「りらくる」勤務 × 常陸太田市 青蓮寺 副住職

藤井 知己さん

身体も心も要が大切

コロナウイルスが流行する春先、多くの人がホームセンターに並ぶ。家庭菜園が流行ったそうだ。

「慣れない畑仕事で腰を痛めた」。そんな声が聞こえてくる。

「身体の中心は『腰』、ここを痛めたら他の箇所にも影響が出る。当たり前に動く腰に感謝をして、しっかりとケアしたいですね」

リラクゼーションセラピスト × 僧侶 の藤井知己さんは言う。

初夏の頃、青蓮寺本堂にて藤井さんにマッサージについて尋ねた。

── マッサージを始められたきっかけは何ですか？

幼いころ祖母に「揉んでほしい」と言われたからです。その時に「良かったよ」と言ってもらえて。その一言が心に残っていて大学生の時、マッサージ店でアルバイトを始めたんです。気がついたら仕事になっていて八年以上、お客様にリラクゼーションを提供しています。

── コロナウイルスの影響はありますか？

一時的にとても暇でした。でも今は反動で忙しいです。「ずっと家に

いるから普段と違う場所が痛い、よろしく頼むよ」とか言ってくださる常連の方もおられて、やる気がでます。

――実は僕、こういうお店に行ったことが無いんです。なんか痛そうで。銭湯に置いてある機械とかから挑戦したほうがいいですか？

マッサージ機もいいですね。でも、人の手の方がリラックスできると思っています。たまに「痛そう」と言われる方もいますけど、そんなこともありません。一番最初に教えてもらったことは「相手の呼吸に合わせる」ということです。相手のペースに合わせてゆっくりと体重を乗せていくんです。こちらのペースで力任せに押すと、ただ痛いだけでリラックスできません。呼吸を合わせてゆっくりゆっくり一つになる。それによって、こわばっている身体がほぐれていくんです。この”合わせる”ということが出来るのが機械には無い人の良さだと思います。

――合わせるというのは難しそうですね。

そうですね。一人一人違いますし、体調や心の状態によっても変わります。特に初対面の方は緊張もあるので難しいです。少しでも和むように笑顔を大切に、まず相手を知ることを重視しています。

――『仏説無量寿経』にある「和顔愛語 先意承問」（相手の身になって穏やかな笑顔とあたたかい言葉を発し、相手の気持ちを慮って動く菩薩の修行）みたいですね。

大切にしたいですけど、なかなか難しいです。

――今後はどんなセラピスト又は僧侶でいたいですか？

Profile

藤井 知己（釋知己）

趣味・特技：食べ歩き

好きなもの：餃子

座右の銘　：和顔愛語

お店にはおしゃべりすることを目的に来てくださる方もいらっしゃいます。なので、とにかくお客様の話を聞くことを大切にしています。心と身体は別物ではないと思っています。心のしこりを少しでも吐き出していただけたら身体のこわばりも少しは楽になるんじゃないかなと。どちらにせよ、ただ押すだけ、押し付けるだけではなく、しっかりと”ほぐす”ことが出来るような仕事をしたいです。

――”ほぐす”。大切な心構えを教えてもらったように思います。ありがとうございました。

ありがとうございました。良ければおこしください。

「押されて良し！」

藤井さんのおススメ TOP 3

1. 腰
2. 足三里
3. 足裏（つちふまず）

人は身体の中心の腰を痛めると身動きが取れなくなる。私たちの心はどうか。家庭かお金か健康か。掴んだものは壊れゆく。変わることのないハタラキが常に届いていることに気づきたい。南無阿弥陀仏

令和二年八月十九日　聞き手：水戸市 安楽寺 澤田唯

～茨城の念仏道場を尋ねて～

ぎょくせんさんじょうこうじ

玉川山 常弘寺

創建以来、寺基移転なく八〇〇年の歴史を紡ぐ

常陸大宮市石沢の豊かな自然に囲まれた場所にある常弘寺には、約四〇〇年前に建てられたという本堂が今も残っている。歴史の深さを物語る重厚な本堂からは力強さを感じ、まるで阿弥陀仏に「われにまかせよ、必ず救うぞ」と常に呼びかけられているような安心感がある。

常弘寺は親鸞聖人の高弟「二十四輩」の一人、後鳥羽院の朝臣であった慈善房が開いた寺。嘉禄元（一二二五）年に創建されて以来、寺基を移すことなくこの地を守り続けてきた。当寺には、県指定文化財になっている本尊や聖徳太子木像の他、貴重な法宝物をいくつも所蔵している。

謙虚な姿勢を心がけて

処暑の時期、向拝には参拝者の為と思われる虫よけスプレーがさり気なく置かれていた。参拝者を気遣う住職の人柄が垣間見える。常弘寺二十九代目住職として早十五年。門信徒だけでなく多くの方に参拝していただくには、住職だからといって驕らず訪れる方一人一人親身に対応することが大切だと語る。また最近では画面越しの会話が多くなる中で、ネット上での言葉と実際に人と会って話すのとでは、その重みが違うのではないかと危惧している。

住職として人と人とが触れ合うことの大切さを伝えつつ、参拝者が安心してお参りできるよう今の世の中に対応した対策を模索中だ。

未来を生きる力を育む幼稚園

寺の境内に入って直ぐ左側に坊守（住職の妻）が園長を務める若草幼稚園がある。境内に子どもたちの元気な声が響き渡っており、訪れた人も自然と表情が和らぐことだろう。若草幼稚園は前住職が設立して約五十年。これまでに三千人を超える園児を卒園させてきた。

東日本大震災の影響でガソリンスタンドやスーパーに長蛇の列ができた時、その列に割り込む大人の姿を見た坊守は、この大人は子どもの時に一体どのような教育を受けたのだろうかと疑問に感じた。園児たちには自分本位な生き方ではなく、他人の気持ちを考えて行動できる人になるよう伝えている。園の理念は「未来を生きる力を育てる」こと。園児への教育は今その成果を出す為のものではなく、あくまで通過点。未来を生きる力を育てる時期だとその思いを語ってくれた。

茨城東組広報誌『響流』第十号
二〇二〇年十月発行
発行／浄土真宗本願寺派茨城東組
〒三一三－〇一二三
常陸太田市久米町二〇－一
正念寺内
編集／茨城東組　阿闍世の会